京城新報

●新聞料 ▲一二錢一ヶ月前金 金貳五錢●三ヶ月前金 壹圓▲六ヶ月前金貳 ▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 三月廿二日
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三番

韓國に働きたる人物 其十三

奉天總領事荻原守一（上）

▲奉天に於ける萩原守一を思ふと同時に頭に浮ぶのは、營口領事の川上俊彦である、双方同役で若手の前途多望の外交官である、併し其手腕に於ては、萩原は到底川上に及ばない、萩原も若手の內では隨分やる方だが、渠が立身の速かなりしは、伯父山縣有朋の光が渠の背後に輝くからである

▲韓國では其輝で大分巾が利たが、滿州に於て後藤伯爵の前では意の如くならぬのである、全体外務大臣林董の鈍いからでもあるが、萩原も鈍いのである、一時滿鐵側の壓迫を受けて辭職するとまで弱い音を吹たのを以て見るも渠の力量は大概推し測られるではないか、

▲渠が明治廿九年仁川で領事代理であつた頃は中々男らしい擧動をして居留民に歡迎されたものだ、其時は年は若し名譽心の勃々たるとで、惡く言へば煽てられて乘氣になつたのである、

▲其頃も地方に暴起が頻に蜂起し、命から〳〵で逃げ歸た連中と、風雲を望で居る志士とが聯合して鷄林奬業團と云ふものを起した、其組織は仁川に本部を置き、一府三港に支部を設け、平壤、開城等に大區長を置き、其下に小區長を置き、一朝事あれば會員は皆武器を以て起つ軍隊組織であつた渺たる一領事代理の萩原は直に之を認可した、今の統監府の連中では迚も出來ぬ藝だと思ふ、

▲八道に散在せる在留邦人は大概團員となつた、新に內地に入込むものは、此團の保護を受ける必要あるを以て、皆團員となり數島の大和心の蹴を摺り込だ團員證を受けたものだ。

▲此時に於ける萩原の行動は全く在留民本位で、在留民側では力ある味方を得たかの樣な感があつたのである、故に渠が伯林に轉動を命ぜられ、歸朝せむとするや、居留民は一齊に惜んだのである、

▲渠が仁川を去るに臨み、居留民は盛なる送別會を開て衷心より名殘りを惜んだ、此際鷄林奬業團は頌德表然たるものを送つた其文句の中に、『閣下の前途は險數の月旦里の花擬多其神目を慰むるものあり』と雖も我等居留民は」云々と言へるが如き嫁なる敬詞を呈したのである、

▲渠は兎に角斯の如くにして、仁川では豪ひものになつたのである、併し渠が公使にも憚らず男らしき所置を取つたのは、伯父山縣の勢力が背後にあるからと自信したからである、公使や其他のものも夫れが爲に一目措たのである、

▲渠は斯く花々しき幕を以て切上げ、餘情を殘して意氣揚々と仁川埠頭を解纜したのである、

●仁川便より

▲春風駘蕩の候生臭き官風吹き荒みて長閑なる春の景色もあたら臺無しにする事流行いたし候

▲朝鮮タイムス發行停止、こは彼の大郎日日社主の沖田氏退韓處分に次いで起りたる官風の荒れ模樣に候同紙の發行停止を喰ひたるは五八銀行攻擊の筆が偶々安寧秩序を妨害するてふ理由かと被存候アンナ事が安寧に妨害ありとして言論の自由を拘束するなら、詐欺的營業をなして京仁經濟界を攪亂する恐れある五八銀行こそ安寧を妨害する代物に候はずや

▲イヤサ統監府れ役人の或方が五八との秘密關係かられ手先となりて新聞酷めの狂言を演じたるやの噂有之候が若し眞なりとすればこういふ方こそ安寧妨害の優なるものに候はずや

▲閑話休て措きタイムスの記事か五八攻擊を始めたるは一に同行か無茶苦茶に貸出緊縮をなし且つ極端なる回收をなしつゝありたるによりさなきだに金融逼迫の破目に陷りつゝある經濟界かいやか上にも困憊の悲境に陷りたるを救はんか爲めに同行の反省を促さんとしたるに不過と存候

▲所か同紙の筆尖偶々矯激に亘りたるやの觀あるは之れ畢竟牛を斬るに牛刀を用ゐたるに不過五八の如き沒常識の銀行を相手にするには止ぬを得ざる筆法と被存候

▲若もあれ丈の記事か安寧妨害なりとて發行を停止せらるゝか如きあらば新聞の必要何れにか存す、若し必要なしといはば即ち欲む、從つて韓國に於ける新聞發行を全々禁止するに如かざるべしと存候

▲二十五年紀念祭も五月五日に接近致候當日の東奔西走は無疲れる事ならんか兎に角滿足に盛典を擧行致度物に候(仁川通信)

●韓商能力の進歩

米穀出廻狀況の半面

本年度韓米穀の各貿易港に出廻りたる高は例年に比し敢て異なりたるには非ざるも韓內地に於ける圍ひ品は頗る巨額に達せり想ふに昨年及び一昨年は稀有の豐作なりしを以て其出穀高は餘程巨額に上るべきは勿論なるも昨今阪地向き兎角不引合ひの爲め輸出振はず買腰甚だ弱きを以て各地共相場は下落せり是れ韓商の一般に買惜みて手放さざるに起因すべしと雖も翻つて其裏面を窺ふ時は驚くべき二大新事實の伏在するを認むるに難からず二大新事實とは何ぞや一は農工銀行創立以來韓人間の金融狀況が順調になり且徵税方法の改善せられたる爲め彼れ等の財力が增進したると一は彼等の商業能力が進步したる事之れなり蓋し從來得るに從つて市場に廻送し來り毫も商機の如何を顧慮せざりし韓人も昨年來著しく其態度を改め常に貿易地に於ける問屋と氣脈を通じて將來に於ける相場の昻低を推り商機の熟するを待つて徐ろに廻送し來り殊に一時に多數を輸送する時は買手に付け込まるゝ虞れあるを以て機を計つては少許宛廻送するなど其懸引の巧妙なる眞に驚くべきものあり甚だしきに至りては貿易市場に搬出すべき廻米を途中にて買占め市價の昻騰を待ちて賣放つ者尠なからず爲めに從來坂地相場の一高一低によりて左右されし韓國各港の穀物界も今や此韓人等の思惑進退によりて尠なからざる影響を蒙るに至れり然れども是れ究極する所は資力の厚薄に歸し彼等か以上の如く圍米をなし得るに至れるは畢竟持久し得る丈の資力あるか爲めにして其結果彼等は圖らずも商機なるものを會得するに至りたるものに外ならず要するに財力の伸縮は時に依りて多少の異同あるべきも遂に此商略を彼等に會得せしむるに至りたるは一國貿易の發展上已むを得ざるの徑路なりとは云へ本邦商人に取りては由々しき大事と言はざるべからず

●暴徒討伐情報（軍司令部着）

△賊爆彈を使用す 黃海道遂安守備隊長の報告に依れば遂安附近の部落周圍に於ては四月十日爆彈五十個を發見し之を檢査するに凡そ團子位の大さに黃色火藥と小石を混じ之を油紙に包み其口を糸にて固く結びたるものにして固き物質に投げ付けば即ち爆發す又靴にて之を踏めば爆發して中より小石四方に散飛す其爆聲は小銃の音響より稍大なりと近來銃を携へざる暴徒は此種の爆彈を所持し居ると尙之が爲め被害せる人民あり而して此爆彈の功力は極めて少なく只其音響に驚くのみなりと云ふ

△江原道平康守備隊より王洞附近に派遣したる下士以下九名は四月十二日夜四時金谷に於て約四十の賊を夜襲し其十一を殪し負傷若干銃十八刀二を鹵獲す

△慶尚南道治爐分遣所兵四名は四月十一日同地西方約四里の地に於て約三十の賊に遭遇し其四を殪し七八名を負傷せしむ

△慶尚北道慶州守備隊より派遣したる討伐隊は四月十三日永川東北約四里の地に於て約三十の賊徒宿泊中に乘じ之を襲ひ其三を殪し數名を傷く

△全羅北道群山守備隊より出せる騎兵斥候は四月十七日同地北方舒川の北方の山中に於て賊五十と遭遇し其十を殪す

△全羅北道鎭安守備隊長以下二十一名は十六日茂朱南方約三里半の地に於て約六十の賊を包圍攻擊し賊魁以下四十二を殪し十五を傷け四を捕ふ

△咸鏡北道茂山南方約五里虛彥洞附近暴徒出沒の報あり茂山守備隊より十一日夜將校以下十八名を派遣し尚營林署員の作業掩護の爲め更に將校以下二十八を派遣す

△四月十八日午前一時暴徒約百名は全州守備隊より出せる任實分遣所を襲ひしが我分遣兵交戰二時間にして之を擊退す賊の死若干我兵一名戰死す一名輕傷を負ふ

●内部分課規定の改正

内部警務局にては事務の敏活を圖るため從來の警務、保安、民籍の三課の外に局長直屬の職員を置き左の如く事務を分掌する事とせり

局長直屬
一、高等警察に關する事
二、巡視に關する事
三、判任官以上の進退に關する事
四、文書の收受發送に關する事
五、官印管守に關する事
六、他課の主管に屬せざる事

警務課
一、警察區劃配置に關する事
二、服務規律及び巡查敎習に關する事
三、巡查雇員の進退に關する事
四、警察賞與及び巡查給與に關する事
五、弔慰、扶助、療治及び退隱料等に關する事

保安課
一、圖書出版新聞紙に關する事
二、贋幣に關する事
三、行政及司法警察に關する事
四、外國人に關する事
五、移民に關する事

民籍課
一、戶口民籍に關する事

右の如く改正すると共に各課員に多少の變動あり即ち岩井警視は局長直屬として高等警察及び庶務に關する事に參し澁谷警視は警務課長となり齋藤警視は保安課長となり民籍課長趙書記官依然たり

●平壤より

箕城の春光未だ若くして駘蕩の候に至らずと雖も河江の堅氷既に解けて洋々たる碧流は春霞靄々たる牡丹台乙密台の麓を繞ふて流れ艇川點々樵聲長閑なるの風光は實に北韓唯一の景勝地たるの活畫を描きて二六時中俗務に忙殺せられ營利に汲々たるに止むを得ざる生等も一朝夕の閑を偸んで此の江畔に臨み此の絶景に接するときは將に萬丈の黃塵を逃れ俗臭を脫し人間界に超越して神の秘苑に導かれたるやの感も有之候

△翻つて居留地の現狀は更らに見る可きものとてもなく常に俗人輩が言ふ結氷期の不景氣即ち結氷期を小睡眠時季に籠居期も既に過ぎ枯骨蘇るの今日尚は睡眠時季の殘夢未だ醒めずして七千の居留民バラック裏に蠢動するあるのみ、只聊か從來と目先變りて所謂ラシクなりたるは停車場道路の往來にて人力車と平壤特有の不文明的人車鐵道の往復頻繁と(從來に比し比較的)なりし位のものにて御座候。

△开は即ち直通列車の發着に伴ひ他近距離の區間列車運轉の增加によりて從來より數回の列車發着增加を見るに至りしものにて從來停車場前の通行往來は朝夕二回一二時間の間に多くして晝間は殆んど人影を斷つとまでには非ざるも行人最も稀れなるものありしが直通列車並に區間列車の增發着によりて晝間尚は彌々往來あるに至り多少面目を改めたるの趣有之候。

△之れにつき所謂不景氣なる平壤の天地に獨りホク〳〵ものなるは人力車夫にて殊に四月一日より京義線が營業線となりてより當驛の乘降客數は從前に比し著しく增加したるもの丶如く曾ては直通列車の運輸により平壤驛は即ち京義間の中間驛となるを以て甚だ其下車人數を減じ多少平壤の繁榮を殺ぐに至らんとの杞憂を爲すものさへありしに事實は之れに反して直通列車の運轉されてよりは夫れ丈けより多く往來旅客の乘降を增し旅館及び人力車夫等も多少繁忙なるやに見受け候。

△蓋し此の現象は決して偶然の事に非ずして當然の事と爲すを得べく從來は京義往來旅客にして例の序乍らの寄泊の意あるものも若し當地に下車するときは一日二泊の長時間と無用の費用とを費さゞる可からざりしを以てよく〳〵の所用あるものか若くば巡遊の目的を以て來るものに非ざれば到底其の時と費用との冗費を許さゞりしなり然るに直通列車の運轉を見るに至りては京義線往來旅客にして平壤一見の意あるものは半日と一泊若くは一晝夜の時間と費用とを以て其意を充すを得るの便あるを以て平壤未見の人士又は單純なる用務を有するの人は悠々下車宿泊するに至り乘降者の增加するは之れ當然の事と言はざる可からず候。

小說

紘のみだれ（百二十三）

永井檪園

『併しまあ御前も無事で何より結構だ、實はモウ歸朝してから餘程になるが、お前の在所が知れないので、方々聞き合せた結果、漸く今夜此所に居る事を聞き出したが、明日夕景新橋を出發しなきやならないので、それで斯麼夜深訪ねて來たのだ。』

『それは〳〵能くお訪ね下さいました、實は不品行の結果、貴方に御相談も申上げず妻帶致しまして、既に小兒まで擧げましてございますが、何うせ申譯の爲やうが無いのだからと、家を持ちました事も、何彼も秘して申上げなかつたのでございます、どうぞ多罪の寛容を願ひます。』

『何も謝罪る事はないさ、人間は何うせ妻帶も爲なければならず、家庭も作らなきやあならない、自分がこれならばと見込が附いた女なら、親に相談も親戚に協議も要らないさ、自分が任意に結婚するのが、家庭の平和が保てるかも知れない、知れないちやあない、確に平和が永續して往けるのだ、實は先刻來たのだが、何か養父との間に意志の衝突か、感情の行違ひでもあつたらしく、話し最中だつたから、故と今まで戸外で差扣へて居つたのだ。』

『では、只今の顚末をお聞きになりましたか。』

と、赤面する。

『いや、聞いたでもなければ、聞かないでもないが、何にしても貞淑な妻を娶つて幸福だね、これに就て私はお前の妻なり妻の父なる人なりにお目に懸つて置きたいと思ふが、差支が無ければ、此處へ些と呼んでは呉れまいか。』

和田垣が、謹賞すると思ひの外、あまりに優しき物の言態に、山田は何うなり行く事かと心密に危ぶみつゝ、言はるゝまゝに養父とお縫とを呼んだ、そして、各自初對面の挨拶が了ると、和田垣はお縫の抱いた小兒をも熟視した後、靜に一同に向ひ、

『私が今夜突然訪ねて來て、殊に未知の皆さんに面會まで希望したのは、どうか今後は御老親も山田夫婦と同居して下すつて、一家睦じく、何時も春のやうな暖くて、麗はしい家庭を作つて貰ひたいのだ、皆さんも山田からお聞きかも知らないが、私は山田家から出て、和田垣の相續者となつたので、私のために甥と云ふのは邦男が一人、邦男のためにも叔父と云ふは、私が一人あるのだ。で、邦男は私が生れた山田家の正統なる相續者であるから、私も出來得る限り保護を加へて、邦男を世に出さなければ先へも濟ます、第一亡くなつた家兄へ申譯が無いから、今夜改めて邦男の財產として三千圓の有價證券を與へるから、これは萬一の時の準備として、幾分かの利子も入る事だから、親子四人が圓滿に暮して往つて貰ひたい。

そして、邦男は、益々美術の研究を怠らないやうに、やがては家名を興すだけの名譽を揚げる覺悟を爲なければならない、此事は特に私が頼むで置く。』

と、有價證券の包を取出し、更にポケットより幾片の紙幣を取出して。

『これは甚だ失禮だが、皆さんに初めて面會した證に差上げるから、金子だと思はないで納めて置て下さい。』

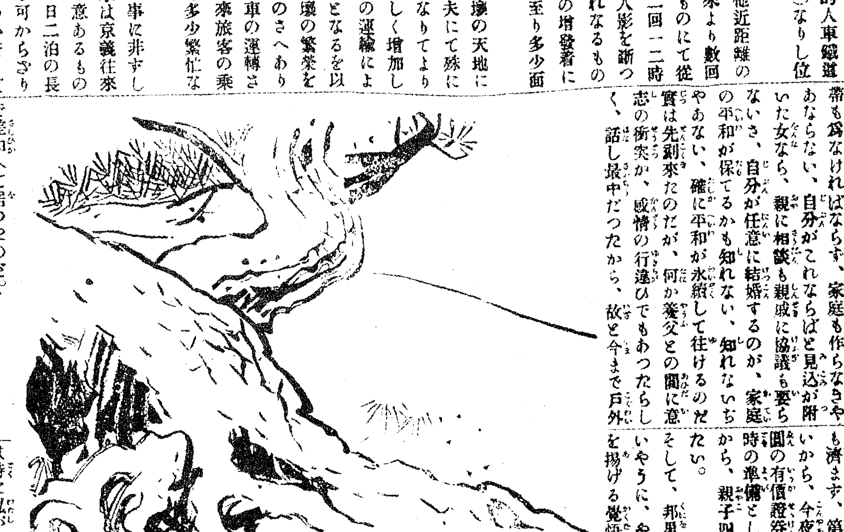
と、勇五郎とお縫との前に出した。山田を始め勇五郎、お縫も、夢に夢見る心地して互に顏を見合せつゝ、言合はしたやうに、ヒタリと疊に頭を附けて、厚意を謝するのであつた。

折しも道行く人の聲も凍へて、寂寞の屋

『風聲瑟々雪颯々、奇寒堪へ難し老の屋、知らず瓊蹉幾尺盈るを、戸隙寸光明かなり、橋嶺溪尋るに意無し煖爐炭を熾して首塵縮む………』

と、吟じ行き、後は遠ざかつて聞えなかつた、雪はまだ止まないで、しと〳〵と降つて居る。

（終り）



妄聽妄言　　半見漢

▲人ありて曰く、暴徒鎭定には太皇帝の出現最も効あらむと、僕曰く然り、之れ素人の考なり、伊藤統監の考なり、太皇帝の出現は一時の効目あらむも、忽にして舊態復活し來らむ也。

▲韓國民の一般は日本帝國の强大を知らず京城十里の外は全く別天地なり、京城の出來事は一箇月后にあらざれば分らず、斯る有樣なれば煽動者あれば本氣に騷ぐ、故に茲一番大討伐をなし嚴たる國威を示し、渠等が到底敵せざるを知り、更に斷念するに至らしめざる可らず。

▲幾度も繰返すことだが、韓國民は威壓すべくして懷柔す可らず、日本の對韓策が常に之を顚倒して懷柔策を取りたるが爲に失敗せり、之を諒解せば暴徒問題も直に解決せむ、此問題は陳腐なりと雖も、急要の問題なり。

▲韓國民の程度にては封建制度を布くも可なり、野武士的人間を撰拔して大名となし一道を宛てがひ、之に生殺與奪の權を與ふべし、斯くして日本の士風を以て鷄林八道の野を風靡するも面白からむ乎。

▲政客と自稱する一韓人曰く、米國の共和政治を韓國に移し、伊藤公を歸化せしめて公を大統領とせば如何と、僕曰く共和政治となすならば、大統領には太皇帝最も可ならんと、韓政客默して眼球を動かすのみ。

▲政客と自稱する日本人曰く、貴紙の唱導する統監府を廢し、統監を韓國の攝政とし殖民府を設置するの論は誤謬なり、統監は假令攝政となるも日本の派遣せる統監なり植民府と意見を異にせる場合、之を裁定する官職を更に置かざる可らずと、僕曰く足下の見解が誤謬なりと。

▲統監が今日の如く、一身兩用の使ひ分けをしては、統監自身も困るが在留帝國民も困るなり、之を明にして帝國民の立場を確立せざる可らず、植民府は强硬の態度を以て帝國民の權利を保護すべし、其極統監と衝突するも一歩も假借す可らず、之れ統監の一身使ひ分けに優るなり。

▲現狀の儘にして一身使分けを遣られては帝國民の立場何くにある、帝國民專問の保護機關を要す、然らざれば帝國民の發展は愚か、減退の結果を見るに至らん、其微將さに現はれむとせり。

東京電報

▲東宮殿下參內　皇太子殿下には本日參內　天皇陛下の御病氣御見舞あらせられたり

▲擱坐水雷の修理　去月十一日濱田港にて擱坐したる第四十四號水雷艇は應急修理成れり

▲沿海州の漁區競賣　露領沿海州漁區競賣にて日本人に落札せしもの百十九箇所あり

▲專賣局部長の渡韓　專賣局部長池袋秀太郎は清韓へ差遣を命ぜらる(以上二十日發)

▲戰死者の招魂祭　日露戰役及び韓國の暴徒討伐の爲め死沒し靖國神社に合祀せられたるものゝ招魂祭は五月四日より執行さるゝ由(二十一日發)

各地電報

▲變裝巡查隊の討伐　第一變裝巡查隊は十四日興海郡北西面朱靑洞に於て約五十名の暴徒に出會し一時間交戰の后之を擊退し其の八名を殪し四名を生擒せり次で淸河郡竹長面に暴徒約百名集團中なりとの情報に接し十五日未明同地に向ひたり(二十日大邱發)

雜報

●伊藤統監參內　伊藤統監には昨日村田少將國分秘書官を從へ正午昌德宮に參內皇帝に謁見せり夫れより秘苑內に咲き亂る花見を終へ一時御陪食を仰付られ義和宮、永宣君、完順君、完興君の各皇族及李總理大臣等之に陪宴せられたりと云ふ

●參與官會議　統監府に於ては一昨日より引續き各參與官列席し會議を開き居れるが多分伊藤統監の施政方針に就てなるべしと

●大臣會議の休會　廿一日は定例大臣會議なるが伊藤統監參內の爲め休會せり

●各大臣の射的　太皇帝には今回黃鶴亭に射的場を設けさせられ各侍從を召させられ弓術の御慰みあらせらるゝことは屢々報せし如くなるが各大臣は一昨日打揃ひて射的をなしたりと此際度支部大臣高永喜氏は何かの機會にて轉落して負傷したりと

●國有森林諸規則の施行　勅令を以て發布されたる國有森林山野及林產物處分規則同國有森林山野處分審查會規則は來る五月一日より施行する旨農商工部令を以て告示せり

●移民保護法施行細則改正　一昨年發布されたる移民保護施行細則中農商工部大臣は內部大臣に第一條詳記しての下に「地方長官(京畿道は警視總監)を經由す」を追加することゝなれり

●豫備金支出　今回第二豫備金中より支出の件左の如く裁可されたり

金九千二百圓	財務署揭示場新設費
金三千四百九十九圓十二錢	地方出駐費
金五百圓	宮內諸費
金七千百三圓八十錢	大韓醫院醫務費
金九千七百五十圓七錢七厘	學部本廳
金九十五圓九十六錢五厘	學部觀象所
金七十六圓五十七錢	學部成均館
金三圓四錢一厘	仁川日語學校
金百九圓三十八錢	漢城英語學校
金十九圓七厘	漢城漢語學校
金百五十七圓九十三錢五厘	漢城德語學校
金四百八十圓	法部任用旅費
二萬三千三百六十六圓	暴徒鎭定費
金千二百七十圓	淸津開港土木費
金四千三百七十圓	表勳院諸費
金百圓九錢	漂民救還費
金八十二圓三十三錢	農商工部本廳
金五萬圓	身故者祭料及救恤費

●警察官服裝改正　內部警務局にては警察官の服制改正の議あり目下研究中なるが改正服はカーキ色にして日韓人同一の服裝となす筈なりと云ふ

●中樞院贊議補塡說　排日決議の結果罷免されたる中樞院贊議の後任は近く補塡さるべしと聞けるが前法部大臣張博氏も其一員なるべしと傳へらる

●經濟協會例會　韓國經濟協會は來る二十五日午後六時三十分より日本人俱樂部に於て會員小田柿捨次郞氏の送別を兼ね四月例會を開くと云ふ

●有志政談大演說會　本日午後六時より本町通り本町座に於て京仁各新聞記者辯護士有志家諸氏の時事問題に關する政談演說會ある由なり因に當夜の演說は政治經濟法律に亘りて非常に有益なる者なるべしとのことなれば傍聽者は定めて多からんとのことなり但し何人にても傍聽無料

●橫奪されたる陳情書　大邱日日新聞主幹沖田藥次郞氏に對し理事官氏野德太郞氏が發したる退韓處分の不當なるは世間既に認る所の如し而して同地在留民は頗く沖田氏が這回の奇禍に同情を表し八十余名の連署を以て曾根副統監に宛て其取消の請願を爲さんとて書留郵便を以て發信せるを途中某官憲の爲めに郵便局より橫奪されたりと云ふ陳情書の全文は如左

陳情書

大邱日日新聞社長兼主筆沖田藥次郞は公論公議の人にして居留民の興論を正當に代表せるの人にして兼て其素行人格等に於ても我々一同の信認措かざる所也然るに此人にして安寧妨害に問はれ退韓處分の奇禍に罹らんとは我々居留民の頗る意外とする所にして寧ろ氏野理事官の處分を怪むの情に堪へず斯の如くんば理非顚倒黑白混同却て秩序を破壞し居留民亦安んじて統監政治の下に安息するを得ざるに至らん仰ぎ冀くは此際人權を重んじ平和を念とせらるべし統監閣下の眼識を以て一應其顚末の調查を命ぜられ無辜の沖田氏處分を取消されんことを一同連署を以て伏して懇願の至に堪へず恐惶謹言

●俵次官の視察談(續き)　何となれば此れ等の學校に教鞭を執らしむる教師は理今に於て其の養成所少なく適當なる人物を得る事困難にして經費も僅かに前述の如く有志者の寄附金授業料を以て支持するの狀態に在りて校舍及び設備の不完全にして教授訓練の充分に行屆かざるは寧ろ當然にして現在の自機は其の全力を盡したるものなりと認む

同地方一般に子弟教育の必要を認めて講學心の盛んなるため觀察使を始め官民有志者が學校の增設を希望せる如きも現今の制度の下に父兄有志者の充分滿足すべき學校の設備をなし學徒の教育を施すは頗る困難の事業なり試みに平安南道の一道に於て小學教育を普及せしむるに幾何の經費を要するかを計算せんに平安南道の人口約六十一萬にして學齡に達したる兒童約九万七千なればは此の半數就學するものと見ても四萬八千餘の生徒を收容し得べき學校の設備を要す四萬八千の生徒を收容する學校は學部が全國各地に設立せる模範的普通學校二百に相當す一校の維持費を少額に見積るも一千五百圓にして一箇年三十萬圓の經常費と一校の建築費約七八千圓にして之に机腰掛其の他圖書機械器具等の備品費約二三千圓を加ふれば概算一萬圓にて二百校に對し臨時費二十萬圓を要する計算となる日本の就學兒童の步合は百人中九十五以上なるも韓國に於て直ちに此の步合に達するは企及す可らざる所にして百人中五十の就學步合とするも前述の如き多額の經費を要し其の學校に勤務すべき教員は二百校にて少くとも八百人を要す一道の小學教育を普及するに其の經費教員を要する事如斯なれば韓全國に於ては非常の多額に上る前述の如き小學教育の進步普及を寄附金に據りて維持せらるゝ現時の私立學校に希望するは不可能の事に屬し而して國費の支出は是れまた現今の韓國財政に於て望む可らず去れば地方税を賦課して之が施設をなさゝる可らざるを以て隨て之等は將來起るべき地方税制度の創設後に計畫するの外なし然らば此の際學部は如何なる方針を執るやと云ふに方に於ては國費の許す限り各地方に模範的普通學校を設立し他の私立學校をして之れに倣はしむる方法を執り學部當局者及び地方官憲は此の方針を以て益々模範校の完成を期し一面に於て私立學校を監督して其の効用を完ふせしむるの外現時に於て良策なからん此の點に就ては幸ひに平壤滯在の二日間に於て日語普通兩學校の落成式に臨み父兄其の他の來賓に向つて意見を述ぶるの機會を得たるは好都合なりき同地方一般の人心も漸次之等模範學校に注目するの傾向を來し從來は生徒數微々たりしも本年は日語學校入學希望者八十二名の多きに達し學校設備の都合上五十二名を收容し生徒總數百名に上り普通學校に於ては志願者百廿名中百名を採用し生徒總數二百三十名の多きに達したり

因みに運動會當日の概況を述べんに參加したる學校生徒人員は既述の如くなるが之が參觀者實に三萬以上にして道內各部參加學校生徒の父兄親戚等附隨し來りて一大運動會たると同時に一大祭典祝日の觀を呈したるに平壤の市況は般賑を極め近來になき好況にして諸般の雜貨店飲食店は平素に四五倍するの收利あり市一般の收金額一萬圓以上に達せしならんと聞けり當日は如斯非常の盛況にして見物人には面白く感ぜられたらんも惜い哉生徒數餘りに多きため各箇の競技動作少なかりしが如し運動會の競技は少年子弟をして技を戰はしむるの間に各箇に規律を守り動作を活潑にし技を競ふに他を排擠して己れ勝ち占めんとするが如き卑劣なる振舞なく公明正大の精神を養成する好機會なるに此の運動會に於ては之等の訓練をなす事の充分ならざりしが如し又三十里以上の遠隔の地より參加せしめしため父兄の出費は少額ならざりしならん余は將來に向つて運動會の餘りに形式に流るゝ事なく且如斯大運動會を催して其の外觀を美にして父兄をして多額の費を致さしむる事なく寧ろ一地方小區域の運動會に止めて其の趣意を明かにし併せて父兄をして多費を卿つが如き事なからんを望みて止まず云々(完)

●赤十字社及愛國婦人會彙報　愛國婦人會永登浦委員部にては來る二十五日午後三時發會式を擧行し日本赤十字社大邱支部は來る二十八日愛國婦人會同委員部にては二十九日何れも總會を擧行し三十日は特に同地に於て駐箚軍隊慰問の爲め活動寫眞會を開催し尙平壤に於ける愛國婦人會委員部は來る五月二日總會を開催し其他仁川、群山、鎭南浦、新義州等の各團体に於て五月中に總會を開催する筈にて何れも關係社員及會員の取纏め總會の準備等に盡力中なり

●憲兵討伐隊出發　京城憲兵隊附憲兵百名は三隊に分離し楊州、高陽、汶山方面に賊徒の出沒頻繁なるを以て之れが討伐の爲め小澤大尉、本間中尉、小林中尉引率して昨二十一日午前八時出發せり

●暴徒討伐情報(軍司令部着報)

△黃海道海州守備隊長佐藤中尉以下三名(巡查一韓兵一通譯一を含む)は四月四日海州西方約四里石潭附近に於て約三十五名の賊と戰ひ其三を殪し六七名を傷け翌五日更に大灘東方約千米突に於て約四十の賊と戰ひ其四を殪し六を傷け一名を捕ふ

△光州守備騎兵中隊より派遣したる石田中尉以下十名は同守備隊より出したる下士以下五名の斥候と協力し四月十八日潭陽西北約三里藥水亭の東北約二里の地に於て約七十の賊を攻擊し交戰二時間にして之を潰走せしむ賊の死十五我に重傷一輕傷二を生ず

●長水襲來の暴徒　全羅北道南原警察署內長水郡邑に四月十日午前四時頃約百名の暴徒襲來し當時駐在巡查は病氣床臥中の一人を除き他は出張不在中なりしを以て賊徒は自由に邑內を橫行し巡查駐在所學校(當時閉校中)郡衙の一部及び民家に放火し郡衙にて金品を掠奪し午前八時茂朱方面に退去せり燒失建物は總計十三棟にして罹災民は全く糊口に差支ふるものあり駐在巡查は郡主事と協議し邑內人民と共に救護に從事しつゝあり又火災のため日人巡查の所有品は一品も餘さず燒失せり

●京畿道鴻山郡の交戰　天安憲兵分隊扶餘分遣所桑原軍曹外上等兵六名は四月十四日午前八時鴻山郡樟項里(扶餘西北方約五里)の北方山麓に於て賊徒約七十と衝突し戰鬪二十分にして之れを靑陽郡七甲山方向へ潰走せしむ賊の死傷不詳我に損害なし賊は十一日午後六時鴻山郡樟項里に於て里長李春令より金二十圓を同所金容圭より金十圓を强奪せる形跡あり

●一山驛附近の不穩　去る十九日午後四時一山停車場附近交河郡鶴峴より約一里半恭陵場と稱する處に賊徒約五十名晝食を爲し今尙彼同地に休息しつゝあり追つては鶴峴附近を襲はんとすとの風說ありしかば同地方は若干の鐵道員居住せるを以て汶山分遣所にては早速憲兵出張偵察に從事せし處更に夫れ等の形跡なく其の儘引き返へしたりしが後にて聞けば近郡鼓外郡竹院里に賊徒四十名來襲し同地の韓人家屋二戶を燒き賊徒等は何れへか逃走せしとの事なりしかば又々交河郡衙洞を經て本村に至り目的地を搜索したりしも終に彼等の隻影を認むる能はざりしも村民は今迄附近に暴徒等の徘徊しつゝありとなし安き心もあらざるこか

●平安道鳳山郡の賊狀　平壤憲兵分隊載寧分遣所憲兵五名は四月十四日午前五時三十分鳳山郡赤城面格田洞西方約千米突の高地に於て賊徒七名と衝突交戰暫時にして之を擊退し追蹤約一里遂に蹤跡を失す鹵獲品韓銃二個一行は賊徒潛伏の疑ある附近村落數個所を搜索し銃器十五其外附屬品若干を押收せり

●黃海道方面の賊徒歸順　從來黃海方面に橫暴を逞ふせし賊徒首魁韓京玉は今回部下二百八十名を率ひて京城憲兵分隊康翎分遣所へ歸順の意を表し來りたり憲兵は之と會見の結果去る九日先づ其一着として主なる部下三十六名武器三十二を沒收して歸順を了す今後引續き多數の歸順者ある見込なり

●軍用金の强請　京城憲兵分隊高陽分遣所の報告によれば四月十三日夜首魁柳春烈の率ゆる賊徒二十二名高陽郡求和道面二牌里(高陽南方三里)に來襲し軍用金六萬兩銃二十二挺の調達を命じ約一時間同里に休憩の上西北方に向け立去りたりと

●面長を脅迫す　京城憲兵分隊江華島分遣所の報告に依れば四月九日午前九時賊徒十數名韓船にて喬洞郡松家面倉洞(江華島を距る西方約六里半)に來襲面長趙仁增を脅迫し折柄徵收しありたる稅金四十圓及び白米二斗を掠奪し午後五時頃乘船江華郡北寺面方向へ逃走せしが尙ほ翌十日午後五時頃一行十二名の賊徒は江華郡西面方向より陸行同洞に到り又々面長趙仁增を脅迫し金三十五圓白米四斗其他雜品若干を掠奪し翌十一日午前一時同面炭浦より乘船西方に退去せり

●巨智部博士歸朝　農商工部鑛務技監理學博士巨智部忠承氏は一昨日午前八時三十分南大門發の滊車にて一時歸朝の途に就く

▲治外法權▼

移り變りの田每の月も中に一つの眞事あり壹千萬の韓人中自分をホントに知つて居る者は宋秉畯のみなりと伊藤公は江戶のまん中で仰せられたのである▲此宋秉畯が忘れもせぬ昨年二月十日の晩南山の某邸へやつて來て邸の主人某氏に向つて統監の人格を誹議し最後に公を罵しるに大馬鹿野郞を以てしたのである▲邸の主人は公の崇拜者である故に宋の暴言に對し大に立腹して彼を叱り飛ばしたのである叱り飛ばされたる宋は引込むかと思の外ドー云ふ譯か益々圖に乘つて果ては韓式亂暴を働き最后に伊藤の大馬鹿野郞を續發したのである▲此時席に居合せたのが京城日報の服部君と大澤君と斯く申す拙者であつたのである服部君と大澤君とは宋の暴言に對し膺懲すべきものと信じたのであるソウして直ちに起つて彼を擲り倒し馬乘になつて彼の頭と云はず顏と云はず滅多打に打のめして彼をして半死半生にならしめたのである▲口は達者でも腕力は及ばぬ野田平は傷さに堪兼ね悲鳴を擧げ拙者の名を呼んで救を求めたのである拙者は場所が場所故彼を死に至らしめてはならぬと服部大澤二君に請ふて彼を扶け起し戶外に放ちやつたのである、今の韓農商工部大臣閣下は命からがら南山を落延びたのである▲繰返して曰ふ一千萬の韓人中自分を知る者は只宋秉畯一人のみと江戶のまん中で伊藤公は仰せられたのである宋が御自分の事を大馬鹿野郞と罵しつたなどは公は夢にも御存じはないのである▲春畝公は大量なる方である、野田平の暴言などは耳に入れられぬのである、公曰く自分を知る者は宋一人と而して宋がドンナ風に公を知つて居るかは只に拙者のみならず萬人の知らんと欲する所である

●近事片々

▲太皇　帝の出現は遣方に依り與名取實也
八道の儒生に空位と切扶持を與るも亦一策
▲韓國　民が生存競爭に堪るや否は疑問也
年々人口の減少することは何を立證する乎
▲布哇「カナカ」族の如く漸次滅却するものならば馬鹿骨折て指導啓發するに不及也
▲適者　として生存すること到底六ツ箇敷からば自然に放任するも統治の一策也
▲伊公　亦六月東上東宮殿下の海外御漫遊に扈從すとは興ならむ茲等が引上の好潮也
▲歐米　人公の眞相を知る者勘し人爵を標準として持てるは受合死花咲かすも亦一興
▲伊公　の護持せる虛空藏菩薩は藤原藤房が楠公父子の作られし者朝夕大切に拜むと
▲所が　其菩薩の手を損し森田悟由師修繕を依賴す爺大分佛心起る如是畜生發菩提心
▲伊公　須氏の凶報に接して驚愕し爲に數日間臥床に就けりとベツセル申報冷嘲せり
▲韓現　內閣員等伊公歸任以來徹宵不眠政權嚙り付の爲に苦慮すとは同申報の冷評也
▲曾禰　副統監は農商工部次官を率いて北韓視察の途に上らむと拓植會社の下檢分乎
▲統監　府官制の改正は副統監を存置するか統監の跡釜は誰か懸案問題が大分殖た哩
▲曾禰　子は北韓視察を畢て夫から東上して往こ打合せると樂天呑氣なるは西湖式也
▲統監　府の邦人言論取締は近來益々嚴を極む韓人に對しては懷柔を極む奇妙の對照
▲是が　即ち問題統監の職責を鮮明にする必要が茲にある統監一身兩用の使分は困る
▲小村　駐英大使は此頃倫敦に於て大夜會を開く其設備結構善美を盡し英國人も歎賞す
▲小村　のする事往々突飛の事あり渠多少豪傑肌あり軀幹少なれ共膽大也と英人評す
▲統一　黨の首領チャンバレン病回復し大に躍動せむといふ老後の戰ひ勇ましからむ
▲新內　閣の新活動と相俟て面白からむ要するに亞氏と查氏との爭殆ど龍虎の觀あり
▲米國　民主黨一致して武賴安氏を推薦する事に決すと此勢ならば或は月桂冠を得む
▲武氏　屢起て失敗せしは民主黨の容易に一致せざるが爲也黨內一致せば侮る可らず
▲上州　高崎在渡邊某といふ男奇妙に蛇を好み手當次第捕へて頭より舌皷打て嚙喰ふ
▲加之　盃茶碗杯を嚙碎き口中血潮淋漓として氣燄を吐く不動明王に似たりとは珍也

●關釜連絡船增加　鐵道廳にては是[illegible]日本郵船會社の[illegible]を備ひ入れ增加することに決し來る二十七日より航海を開始せしむる筈なりと同船は總噸數千九百三十九[illegible]

●神田憲兵大尉の歸任　過日當地憲兵隊本部に所用ありて入京中なりし京畿道竹[illegible]分遣隊長陸軍憲兵大尉神田長平氏は本日出發歸任の途に就きたり

●韓人警部の任命　內部警務局にては今回新たに六名の韓人警部を採用し本日より向一週間教習の上各地方警察署詰を命ぜらるゝ筈にて其の氏名は左の如くこれ等は何れも日本に[illegible]のなりと云ふ

朱陽箕、朴漢弼、李萬善、金炳法、李台承、金正泰

●日人巡查の採用　內部警務局は四月十[illegible]たるものなりと

●群山訴訟事件の解決　前內部[illegible]り中西讓一に對する土地返還事件は當地の[illegible]勝訴に歸したる旨判決ありたりといふ

●義和宮私生兒の來韓

太皇帝淚を揮て意見せらる

風流皇子艷皇子として其名世界に響き渡れる義和宮には曾て日本御滯在中御側に召使はれたる日本婦人某女の腹に男の子を産ませられたることは既に世人の知れるが如くなるが此王子は東京に於て生母の手に依り何の障りもなく育まれ玉ひ本年は最早や三歳とならせ玉ひいたいけの盛りなれば義和宮にも嘸ぞや懷かしく思し玉ふてや右の御子を呼び迎へあらせられしかば此程御膝元に無事御着きありて親子の對面あらせられ妃にも親しく御話しありしより妃にも太く喜ばせられ愛しの王子やと膝に抱き上げ御慈愛一方ならず自ら抱き參らせて德壽宮に參內せられ祖父なる太皇帝に御對顏あらせられたるに太皇帝にも一方ならず喜ばせられ何くれとなく御言葉ありたる上御身の子として行末永く育むべしとの御諚を下されたれば愈よ寺洞の義和宮邸に引取られ義和宮第一の王子として永く住はせらるゝことゝなりたり然るに太皇帝には義和宮參內の節其行狀に就き非常に宸襟を惱ませられ兩眼より淚を落させられ何後外國の婦女子に關係せざる樣又た平素の行狀をも能く愼む樣呉々も御意見あらせられたりとの事なり

●銃獵者統監を驚かす

事少しく舊聞に屬すれども政治上の舞臺に於て千軍萬馬の老將軍と人も許し自らも任ずる伊藤統監の度膽を冷やしたる珍談あり各地に横行する暴徒共は統監の歸途を擁して一仕事演せんとの流言頻りなれば統監に於ても去る十六日仁川上陸後少なからざる注意を拂ひて列車に投じ沿道恙なく永登浦驛に着したるが同驛を距れて僅に數町列車間近く轟然一發銃聲鳴り響きたるにぞ車內の縉紳は勿論遉の統監も度膽を拔かれ斯る事もやと停車場附近を警戒し居たる憲兵巡查數十名は素破こそ暴徒襲來と銃聲を便りに驅付けたるに一人の日本人銃獵者呆然として立てるにぞ事の次第を糺したる處同人は統監列車の見えたる儘畦畔に立ちて歡迎せんと姿勢を正す際誤て獵銃を倒したるため引金動き斯くは轟音を發し多數の人を驚かしたるなりと知れ一同安堵の胸を撫で下したりと云ふ

●壹岐署長の篤志

南大門外より城壁に沿ふて西小門に至る通路の一部は元と巡廳洞と稱し至つて邊鄙なる韓人部落として邦人の居住する者甚だ稀なりしが客臘當居留民團にて市制改正の結果邦人の居住する地所には假令如何なる僻地にても日本の町名を附することゝなりてより其名を蓬萊町と呼ぶに至り爾來邦人の來り居を卜する者日に夥しく昨今にては相應に上流の人士をも見受くるに至りたるは喜ぶべき現象なるも惜むべきには道路非常に惡しく就中彼の銀杏の樹の附近は絕壁兀として俄かに高く殊にある個所の如きは小路の中央部迄斷崖の如く剜られ且つ凹み加ふるに其の附近の個所に限り不完全なる道路二途に分れ居るを以て老幼婦女子は勿論壯者と雖も之が通行に非常なる危險と不安とを感じ居りしが這回西部警察署長壹岐寬氏は同町が自巳所轄の地點たるを以て是等通行人の危險不安を見るに忍びず此の頃囚人をして右道路の修繕を行はしめ其の前記の凹みたる個所には不用の土と石とを埋めて平坦ならしめ二途を取り擴げて一道となし又南大門方面より登る阪路には發掘せし石を利用して石段を作る等種々趣向を廻されしより一般通行人の喜びは一通りならずといふ記者は呉々も壹岐署長の篤志を一般の通行人と共に感謝せざるを得ざるなり

●電鐵會社の横着

漢城衛生會は京城內の衛生設備を完全にするため先づ城內の糞尿塵芥を東大門外一定の場所に搬出して市街の清潔を謀るの方針を立て其の運搬を韓美電氣鐵道會社に請負はしむる計畫にて交渉を重ねたるに同會社は京城の交通機關を獨占し居るにも係らず此の公共的事業に多大の料金を貪らんとして交渉不調に歸したるを以て當局者は已むを得ず荷馬車を以て搬出するの計畫をなし居れりと云ふ

●無風流漢

何事ぞ花見る人の長刀修羅の乃の太打風に散らして見せうとはテモマー無風流な痴者かなその無風流な痴者より百尺竿頭更らに一歩を進めた痴漢は原籍新潟縣西頸城郡上早川村百二十番地平民當時統監附なる歷々の武官邸に雇ひ居れる高瀨猪松(二十)といふものなるが同人は一昨二十日千草色添ふ春の眺めに平素の鬱を晴さんと思ひ立ち公然主人の許しを受けて朝より外出し春の光りも長閑なる獎忠壇へと至り芝生に胡座を掻きては携へ來りしビールの瓶の冷酒をさも旨さうにグビリ〳〵と遣りながら四邊の景色を眺め居りしが醉の段々廻るに連れて氣も心も坐ろ浮れ出し瓢簞許りが浮きものかと怪しき手付きにて踊り出せし迄は可かりしも不圖眼を擧ぐれば桃花は今や笑を呈して吾を頭上に迎ふるにぞ奴さん急に其の花が欲しくなり手を差し伸べて大枝をばポキリと許りに折り取りツツと許りに懷中より赤き手拭を取り出だして頸より胸に縱く結び諸を端し折りて愛芝居の奴助を氣取りチヨマ〳〵と立ち去らんとするところを後から六ヶ敷顏をした巡查がコラ待ての聲諸共に引き捕へ本署に引致し懇々と將來を說諭して放ち遣りたり

●金を返すか北韓へ往くか

愛知縣名古屋市の生れで寺澤ギン(二十三)同カ子(二十)といへる姉妹の者何時の頃よりか此の韓國に來りカ子は本年一月二十二日當地南山町二丁目の飲食店東明樓に前借金百三十圓にて酌婦奉公に住み込みたるが近頃警察署が淫賣狩を始め濡栗的の利益も得られざるより東明樓の主人水野シャは北韓へ移住せんとし夫れにつきカ子との貸借を計算すると百三十六圓の貸金あり內九十六圓をカ子が稼高より控除し五十六圓の貸金と下圓の外に二十二圓の貸金あり此の五十六圓を即時返濟するか但しは北韓へ從ひ行つて淫賣を爲すかとの嚴談判に姉なるギンが三十圓を調達し來り殘二十六圓を帳消しになし呉れよと哀願するも東明樓にては此の玉を北韓へ連れ行き一儲けせんとの野心あれば承知すべくもあらず遂に姉妹は警察署へ保護願をなせしより一昨日樓主をも召喚し殘金は本月末迄に仕拂ふ事カ子は直ちに解雇することに承諾させられ東明樓は米櫃と賴みし酌婦には逃げられ折角の計劃は齟齬して北韓へ行くこともならず大に當惑し居れるとぞ

●子供の行衛

二十日午後五時頃南大門外桃洞に住む金台宋(三十)は目下大邱に居住する原籍當地美洞三十統十戶禹俊熙を伴ひ銅峴警察署に來り前記の禹を相手取り訴へ出でたるが其の申し立てに自分は客年夏頃ある事情ありて最愛の娘を禹方に預け置きしが同十一月久し振りにて娘の顏を見んとて大邱に赴きしに不思議にも大事の〳〵娘が居らざれば禹に其の譯を問ひしに娘は昨今二三里を距つる溫泉に參り居り一週間許りも經ちなば歸り來るべければ決して御心配には及ばぬとのことに自分もソレならばと安心して京城に歸りたるに其の後娘よりは何の便りもなく且つ食料は每月送り居るに拘はらず禹方よりは其の金が屆いたとか屆かぬとかの返事さへも來らねばいよ〳〵不審に思ひて又々大邱に至りしに前と同じ事娘の姿の見えざれば今度は禹に向つて嚴しく其の不在の次第を質したるに禹は曖昧な事を言ひて更らに要領を得ず多分は何處かの女郎屋か淫賣屋へでも賣り飛ばして金に替へしものならむかと思ひ何の道警察の御威光でお捌き下さるやうと淚ながらに訴へ出でたり

●三十男路頭に迷ふ

栃木縣都賀郡大飼村の山中竹次郎(三十)といへるは三十八年の六月に滿洲鐵道に雇はれ大連驛保線課に勤務せしが本月上旬に解雇せられ京城は韓國の大都といふから善き口もあらんかと來りしものゝ誰さへ膳立をして待つて居る者もなく差當り奉公口もなきことゝて多くもなき旅費は遣ひ果たし遂に食餌の料にも盡きて二三日は絕食のまゝ一昨日の午前三時頃南大門通り三丁目を思案しつゝぶら〳〵し居る所を巡查に訝まれ事の次第を申し立てゝ取敢へず一食の情は受けしが分別盛りの男にて路頭に迷ふなどは餘ほど鈍馬の男なるべし

●泥醉して亂暴

南署大山林洞統戶不明金鐘元は去る二十日午後六時頃何處で飲んで來たかへべれけに醉ひされ醉步蹣跚往來を千鳥足で步き乍ら同署清水門外に差し掛るや呂烈の廻らぬ舌もて俄かに俗謠を唄ひ始めしが折柄巡回の巡查が之を制したるに金は非常に立腹し天下の色男の歌を謹聽しない奴があるものかと亂暴にも巡查の上衣をムツと引き摑み二三遍コツきて終に破りしかば早速本署に引致せられ拘留に處せられたり

●南署の出火

時節柄にも似合はず近頃祝融氏の頻々として所々に跋扈するは是れ如何なる都合にや時は去る二十四日午後二時頃南署豆毛坊追八里三統六戶洪明瑞方より出火し瞬く間に隣家の金圓方を燒き拂ひ更に同家と軒を聯ぬる金昌源の宅を烏有に歸せしめ同三時三十分鎭火したるが原因は前記洪方の裏手の柴の積みある附近にて二三の兒童がマツチを弄び圖らずも柴に燃え移りたるより起りしものなりといふ

●迷兒

去る二十日午前七時頃南署竹洞派出所に於て巡查が見張り中五才になる男の迷兒を發見せしが住所更らに判ず依て已むなく銅峴分署にて保護中なるが着衣は赤色木綿のチヨツキに白木綿のパツチを穿ち居れりと

川柳

壽町　吾妻屋主人

「官吏」

統監はあごで小僧をあいしらい
局長の臂へはつたがしがみつき
玩具服つぶしのきかぬ面ばかり
引出して開けて欠伸をしまひこみ
初對面辭令と顏を見比べる
御屠蘇賞與をあてに餅を搗き
人民の債鬼に弱る年の暮
出張をして名物を食ひあるき
ブリツキを拔いたで首をちよん切られ
金筋が國へ歸つて吠ゑられる
二本筋病氣の軍歌歌ひそう
制服で猿電柱へはい登り
永登浦永登浦と呼んで官吏なり　(通信)
ブリツキを故鄕に飾る五十面　(鐵道)


和洋文房具卸小賣
測量製圖器械尺度類
諸官衙御用達
和洋雜貨類
京城本町郵便局前
電話六四八番


貸席
待合
電話一四七番